

# 静かな空

連絡先 742-2602 山口県大島郡周防大島町油宇 福田忠邦 Tel+ Fax: 0820-75-1045

## 空中給油機がタッチアンドゴー飛行訓練

タッチアンドゴーという飛行訓練は、着地の姿勢で滑走路に入り、車輪が滑走路にふれると、停止しないでふたたび上昇飛行するという、たいへん危険で爆音が激しい訓練です。毎日のようにやっています。それどころか、燃料をいっぱい積載した空中給油機が、岩国基地でタッチアンドゴーの飛行訓練を頻繁にやっているのです。失敗して事故が起こったら、火の海です。

(3つの写真の時刻が同じことに注意)



**2014年12月2日**

15時48分 米海兵隊 空中給油機 スーパーハーキュリーズが周回します。

実はタッチアンドゴーのための着地です。  
(大島・由宇方面から飛んできた)



15時48分 着地（タッチ）して砂ぼこり



15時48分 タッチアンドゴー。  
停止せず再び離陸、上空へ（ゴー）。  
(宮島方向へ飛び立った)

# 戦闘攻撃機ホーネットもタッチアンドゴー飛行訓練

2015年10月16日 (岩国基地所属)



滑走路にタッチ

アンド



停止しないで、

そのまま再び離陸上昇

ゴー



「世界遺産宮島」の上は飛べな

いから右に旋回して

阿多田島方向へ

# 戸村良人 文珠山の秋空 日米軍機が乱舞

2015年10月6日



10:59 米海兵隊 F/A-18D ホーネット戦闘攻撃機(岩国基地)  
DT の2機編隊

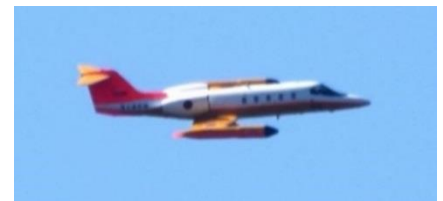
11:14 海上自衛隊 U-36A 訓練支援隊 (岩国基地)

11:49 United Air Lines(写真省略)



12:10 米海兵隊 AV-8B ハリアー2 攻撃機 (岩国基地)  
2機編隊

13:12 海上自衛隊 U-36A 訓練支援隊 (岩国基地)

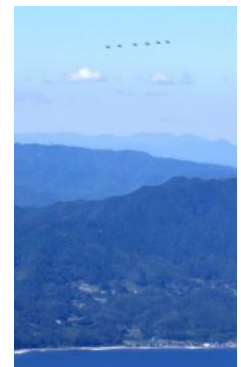


13:19 海上自衛隊 OP-3C 画像データ収集機  
(岩国基地)



13:31 米海兵隊 F/A-18 ホーネット戦闘攻撃機の6機編隊

6機編隊が柳井から由宇上空へ行く

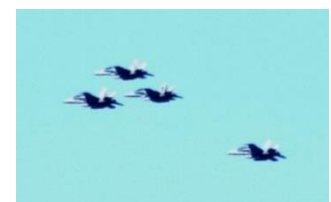


13:39 海上自衛隊 EP-3 電子戦データ収集機 (岩国基地)



13:40 海上自衛隊 MCH-101 掃海・輸送機  
(岩国基地)

14:15 米海兵隊 F/A-18D ホーネット戦闘攻撃機 (岩国基地)  
の4機編隊



14:39 文珠山頂上展望台（662.7メートル）のすぐ上を米海兵隊空中給油機スーパーハーキュリーズ（岩国基地）



14:59 海上自衛隊 EP-3 電子線データ収集機（岩国基地）

15:49 文珠山展望台のすぐ上に海上自衛隊 U-36A 訓練支援機（岩国基地）



15:55 海上自衛隊 UP-3D 訓練支援機（岩国基地）

「行動の写真集」 <http://tomura.lolipop.jp/>

## 大島上空 文珠山頂上よりも低い飛行



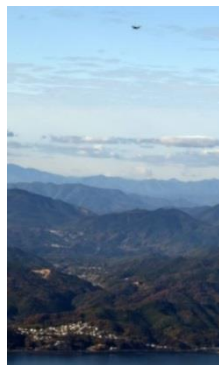
防衛省は「市街地上空の飛行は1,219メートル以上とする」というが、由宇の市街地上空ではそれ以下の高度で飛行している、どうしたのか、との瀬戸内ネットの間にたいして、岩国市長は「1200m以下の飛行に遭遇しているという事はございません」と答えました（11月24日）。しかし、文珠山（標高662m）頂上で観測すると、上の写真のように、飛行機の翼の上の面が見える高度で飛びます。1200mどころか、662mよりも低い高度で飛んでいるのです。岩国市長や市職員も文珠山頂上で観測したら、「1200m以下の飛行に遭遇」することができるでしょう。これはそのまま岩国市由宇町上空へと飛行します。部長は、着陸前に急に「1219メートルからカクンと降りるわけにはいかない」と答えましたが、もともとそういうコースを飛行すること自体が間違いではないでしょうか。

## 2015年12月14日 大島・由宇の上空をオスプレイ飛行

突然米海兵隊オスプレイ（普天間基地所属）「竜」01番が現れました。佐世保基地から飛んできました。飛行機モード。オスプレイは堂々と由宇の市街地上空を飛んでいます。



大島大橋上空



由宇上空



銭壺山上空



岩国基地へ



## 旧海軍機は東側海上から滑走路へ着陸した



海岸方向  
→  
←



戦中の基地滑走路（『岩国市史 史料編』写真：岩国徴古館資料）

現在はほぼ南北に走っている滑走路（右地図）が、終戦までは東西に走り、旧海軍機は市街地上空を飛行せず、東海上から滑走路に着陸し、滑走路から海上に向けて離陸していました（上掲左写真）。

いま米軍機は、大島・由宇上空→滑走路→宮島上空方向 と、海岸沿いに市街地上空を飛行して、爆音で沿岸住民が悩まされています（右地図）。タッチアンドゴーするために米軍が滑走路を南北方向にしたのです。北方向へ飛び立つときは、世界遺産の宮島の上空を飛行しないように右旋回しますが、着陸時は大島・由宇の上空から滑走路へ入ります。そうしないと、タッチアンドゴーがやれないのです。やはり問題はタッチアンドゴーでしょう。

瀬戸内ネットが「離着陸飛行コースを変更して、爆音公害を減少できないか」と質問しましたら（例えば上掲右地図の「望ましい着陸コース ●●●●」）、岩国市長は「飛行コースの変更を要請する考えはない」と答えました。せめて旧海軍時代でも、基地周辺住民にたいして配慮のある岩国市長だと有難いのですが。

こういう岩国基地の現状について、次期岩国市長への立候補が予想されている候補者はどう考えているのでしょうか。

福田良彦氏 厚木からの艦載機移駐計画の中止を国に要請しない。愛宕山の住宅工事の中止も、国に要請しない。（「瀬戸内ネット」への回答から）

姫野敦子氏 艦載機移駐について納得いく説明がないまま一方的に進められない。市民の立場に立って国と交渉する。（「マニフェスト」から）

# 戦争法案

宮本紀子（周防大島町長崎）

「戦争をしない国」を「戦争ができる国」にする「戦争法案」（平和安全法制整備法案）を通過させてはならないと、国会を胸がふさがる思いで見ている。この思いをきちんと意思表示しなくてはならないと思う。ニュースで国会前のデモ参加者が増え、ネットの呼びかけで集まって来る人々、学生や子どもを連れた人達を見ると、何かが変わってきている気もする。インターネットが浸透してきて個の発言が見える形になった。これからどう変わっていくのか予想もつかないが、この動きを見ているともしかしたら今の国会での案外通過を止められるかもしれないという希望をもったりもする。

でも、今の状況は一朝一夕になったものじゃない。大島郡内が合併する前の東和町時代、陸奥記念館の公園に、退役した自衛隊機を設置することになって、平和を願う施設への兵器の設置反対の新聞チラシを作ったのが30年前の事。ほとんど反応は無かったが、当時同じ小部落に住んでいた写真家の福島菊次郎氏が出した写真集の題名が「戦争がはじまる」。10年前に出版された絵本、リボンプロジェクトの「戦争のつくりかた」(<http://sentsuku.jimdo.com/web> で読もう・和・英) のレシピの、今は一番最後の出来上がりの段階に入っている。着々と下地ができていくのだ。

一転、法案が通って、時代逆行の流れが大きくなった時、今の反戦のエネルギーはどうなるのか。もしかすると、これは旗を振って戦地に送り出すエネルギーと同じなんじゃないかという危うさも感じている。

…と書いているうちに、9月17日草案が参院を通過してしまった。いろいろな政治手法があるのだろうが、よく解らない。一応議会制民主主義の手続きの形はとっているんだろう。

議会の様子をうかがっていると、今代表を出してその人に託す間接民主制をとっているけれど、実際我々が選んだ代表者が、我々の意見を反映しているのかどうかと疑念がわく。

個々の主義主張を四捨五入した政治共同体、党という形の中で各議員が民意を反映していけるものか。感覚的だが、イデオロギーを看板で一くりにできなくなっている気がする。

ならば、代表制であれ民主主義にとって、一人一人が考え、意見を持つことは基本だが、国民投票のような直接民主主義に移行するのか。インターネットの浸透によって、個の発言が表面に現れてきている実感がある。

ハンガリーで新しい形が生まれつつあるらしい。IDF インターネット民主党。党自体の政策はない。議会に代表を送る。党員は一つ一つの議題にイ

インターネットを通じて判断。議員が10人として、議案に賛成が60%、反対が40%なら、議員に賛成6人、反対4人というように、意見の相違も反映するというもので、発展途上のようなのだが興味深い。

「市民自ら政策を持とう会」での懸案で、安全保障や地位協定などは、爆音訴訟団の方たちや、基地問題にかかわる方たちの話を伺うと、その不条理さを強く感じる。でも艦載機移駐を目前にしても、直接地元での実感から出た強い意志や確信を私にはもつことができていない。

こうしたい、するべきという要望を成文化して政策にするのは、法間の相互関係とか専門家でないと難しい。井原さんや平岡さんのような法律を学んできちんと修得している方から話を伺うと、さらに難しさを感じる。

国会の流れを見てみると、どんな混乱が生じるのか不安だ。でもこれから生きていく若い人達のためにも、できることをしていかななくてはならない。

そして、今一番取り組む必要があるのは、これから先の目標、目指す方向を明確にすることなのではと思う。例えば平岡さんの示された「東アジア共同体」のような、武力で戦うのではなく、話し合いながらお互いの利害を調整共有していく形を、理想というのではなく具体化しなくてはならない。それが世界の国々と共有できれば、今の懸案である安保、地位協定、米軍基地移設問題などは必要なくなるわけだ。

70年かけて今の様相になったとすれば、方向を変えて、時間はかかるだろうが、希望をもって目指して行くべき目標を持ちたいと思う。険しいだろうが、どうすればよいのか考えていこう。(2015.9.17)

## 従軍慰安婦に思う

藤村英子

日韓関係の最大の懸案だった慰安婦問題で、日本政府が責任を認め、首相がお詫びしたことで一応合意に到ったことが報じられた。これはこれで良かったと思う。

しかし首相は今後、子や孫の世代に謝罪し続ける宿命を負わせるわけにはいかないと「不可逆的な解決」を確認したという。首相が真に反省しているなら、戦争にはこんな悲劇がつきものだということを語り継ぎ、加害の事実をきちんと後世に残し、再び戦争しないようにすることが大切だと思う。しかしこれまでの首相の言動はそれに逆行することばかりだった。

加害の事実が教科書に載れば「自虐的」と排除したり、事実を確認もしないで慰安婦は強制ではなかったと言い、果ては慰安婦問題を扱ったNHK番組に圧力をかけて、政府の都合の良いように改変させたりした。

ソウルの日本大使館前に、慰安婦を象徴する少女像が設置された時、私は思った。この像に首相が額（ぬかづ）いてくれたら、何も言わなくても日韓友好が実現することだろうにと。しかし首相は不快感を露わにし、昨年末、日韓首脳会談の条件に、この像の撤去を要求した。韓国外交省報道官は「日本側が少女像の撤去を主張するのは本末転倒だ」と憤っていた。真の歴史に向き合えない首相を持つ国民として、恥ずかしいと思った。

私は1992年、ソウルで慰安婦問題を始めて公表した金学順さん達5人からお話しを聞いた。はじめはつとめて穏やかな口調だったが、次第に当時を思い出し、抑えに抑えていた思いを吐き出すように、時間がたつのも忘れて号泣しながら話された。

5人の方が異口同音に言われたことは「日本に帰られたら事実をありのまま伝えてください。教科書にも載せて下さい。二度と戦争をしないために」ということだった。5人の方はそれぞれ身体に傷を受けていた。はじめ抵抗したためだという。今、日本人の中でも、慰安婦は商行為のために自発的になったのだと言う人がいるけれど、とんでもないことだ。

慰安婦にされた方は、「工場で働けば10円になる。親に仕送りもできる」等とだまされて連れてこられたという。またある人は横田めぐみちゃん同様、強引に拉致されたという。「今黙っていたら戦争にはこんな悲劇がつきものだということが埋もれてしまう。二度と戦争しないため私達はあえて公表し、日本政府に申し出た。その時＜あれは民間がやったこと＞と軍の関与を否定したので、あえて裁判にまで訴えたのだ」と言われた。しかしこの種の裁判では、事実は認めても、時効とか国家無答責等といった皆却下している。金学順さん達も敗訴のまま亡くなられた。

戦後の行き方としてドイツはアウシュビッツやダッハウ等、加害の証拠をきちんと残している。また被害者に対して徹底的に個人補償している。一方、日本は終戦と同時に加害の事実を悉く焼却、隠滅した。安倍さんは慰安婦について「強制の証拠はない」等と言っていたが、どんなに隠蔽しても、生き証人が居る限り、世界には通用しない。慰安婦として南方につれてゆかれた人達は、終戦後は置きざりにされている。「まだ遺族が待っているのです。どうか探して連れて帰って下さい」と言われた言葉が、今でも私の脳裏に焼きついている。

#### 註

- ・民間で立ち上げた「アジア女性基金」を韓国の元慰安婦達は「私達は物乞いではない。政府から詫びてほしいだけだ」と言って受け取りを拒否した人が多かった（207人中受けたのは61人 — 『朝日』12月27日）。
- ・当時慰安婦に渡った「軍票」と称したお金は、敗戦後はただの紙切れになった。